

共感性がフレーミングに与える影響

Influence of empathy on framing

千田 一朗・大井 京

Ichiro Senda, Misato Oi

近畿大学

Kindai University

25533950015a@ed.fuk.kindai.ac.jp

概要

本研究は、判断におけるフレーミング効果と共感性との関連性を検証する。実験では、フレーミング課題と5種類の共感性尺度（被影響性、他者指向的反応、想像性、視点取得、自己指向的反応）を用いた。その結果、被影響性・視点取得・自己指向的反応とフレーミング効果による選好の変化の回数に有意な正の相関が確認された。これらの結果から、フレーミング効果の生起要因として共感性が関係していることが示唆された。

キーワード：判断、フレーミング効果、共感性

1. はじめに

ギャンブルは、「勝つ可能性が90%」と提示された場合の方が、「負ける可能性が10%」と提示された場合よりも参加者の意欲が高いことが示されている（Levin et al., 1998）。このように、同じ選択肢に対する判断でも「利得」（例えば、勝つ可能性が90%）と「損失」（例えば、負ける可能性が10%）のいずれの枠組みで提示されるかに応じて人々の選好が変わる現象をフレーミング効果と言う（e.g., Tversky & Kahneman, 1981）。言い換えると、論理的には同じ意味合いでも、記述する表現方法の違いが判断に影響を与える現象である（e.g., 大貫他, 2019）。

判断において、他者だったらどのように判断するのかと考えることは一般的によくある現象と言える。本研究では、判断における他者の考慮とフレーミング効果との関連性を検討の対象とし、他者の考慮の指標の一種として共感性に注目した。共感性は、一般的には情緒的に他者の感情に同調することとみなされがちであるが、近年の研究では、それだけでなく、他者の情動・感情状態を理解するという認知的な側面も指摘されている（e.g., 長谷川, 2015）。本研究では鈴木・木野（2008）の多次元共感尺度を利用し、共感性における他者の視点を取り入れようとする側面（視点取得）と他者の感情や意見への影響されやすさ（被影響性）、すなわち他者

の視点や意見等への鋭敏さが、フレーミング効果の生起しやすさと関連しているのではないという仮説を立てた。

2. 目的

本研究の目的は、ヒトの判断におけるフレーミング効果の生起しやすさと、他者の視点取得や他者からの被影響性などの共感性との関連性を検証することにある。具体的には、多次元共感尺度（鈴木・木野, 2008）で測定される5種類の共感尺度（被影響性、他者指向的反応、想像性、視点取得、自己指向的反応）得点と、フレーミング効果による選好の変化の回数との相関関係を検証する。

3. 方法

2.1 実験参加者

大学生17名が実験に参加した（男性6名 女性11名 平均年齢20.7歳）。実験参加者には、謝礼金（1000円）が支払われた。

2.2 手続き

実験では、Tversky & Kahneman（1986）のフレーミング課題12問を著者が日本語に翻訳したものをを用いた。12問は、内容的には同一であるが、表現が異なる2問ずつの対、計6対で構成されていた。図1a, bは、実験で用いた問題1と2の呈示例である。実験はPsychopyを用いて実施し、参加者にはモニター上に視覚呈示された二種類の条件文に対し、いずれかをできるだけ迅速かつ正確に選択することを求めた。

問題6に表記誤りがあったため、対となる問題5を含め、当該のデータは分析対象から除外した。章表現の違いで回答が変化する回数は、フレーミング効果を表すと推測され、この回数を以降、変化数と呼ぶ。変化数の最大値は5である。

表1 共感尺度得点と変化数間の Pearson の積率相関係数と無相関検定の結果

	被影響性	他者指向的反応	想像性	視点取得	自己指向的反応
相関係数	0.58**	0.28	0.43	0.55*	0.51*

* $p < .05$, ** $p < .01$,

共感性は、フレーミング課題の実行後に、全24問で構成される多次元共感尺度(鈴木・木野, 2008)を用いて5件法(とてもよくあてはまる:5, 全くあてはまらない:1)で計測した。

5種類の共感尺度の得点は、鈴木・木野(2008)を踏襲して点数化した。

図1 実験で使用したフレーミング問題の例

a 問題1

アメリカで600人の人々を死に追いやると予期される特殊なアジアの病気が突発的に発生したとします。この病気を治すための2種類の対策が提案されました。これらの対策の正確な科学的推定値は以下の通りです。

あなたなら、どちらの対策を採用しますか。

対策A: もしこの対策を採用すれば200人の人々が助かる。
対策B: もしこの対策を採用すれば600人が助かる確率は3分の1で、誰も助からない確率は3分の2である。

b 問題2

アメリカで600人の人々を死に追いやると予期される特殊なアジアの病気が突発的に発生したとします。この病気を治すための2種類の対策が提案されました。これらの対策の正確な科学的推定値は以下の通りです。

あなたなら、どちらの対策を採用しますか。

対策A: もしこの対策を採用すれば400人の人々が死亡する。
対策B: もしこの対策を採用すれば誰も死なない確率は3分の1で、600人が死亡する確率は3分の2である。

3. 結果と考察

実験参加者の変化数の最大値は4であり、最小値は0であり、平均値は2.12 ($SD = 1.18$)であった。

続いて、5種類の共感尺度と変化数間の関係性を検証するために Pearson の積率相関係数をそれぞれの組

み合わせて算出した(表1参照)また、これらの相関関係に対して、無相関検定を実施した結果を表1に示す。被影響性、視点取得、自己指向的反応と変化数の間に有意な正の相関関係が確認された。これらの共感尺度について鈴木・木野(2008)に基づく以下の解釈が考えられる。まず、被影響性が高いということは、他者からの影響を受けやすい傾向を示している。したがって、本研究においては文章表現の変化に対しても影響を受けやすいと考えられる。次に、視点取得は他者の視点に立って物事を捉えるという、他者指向的な認知傾向を示す尺度である。この傾向が高い個人は、他者の表現の違いや意図に敏感であると考えられ、そのため変化数が増加したと解釈される。最後に、自己指向的反応は、他者の心理状態に対して自己を焦点とした情緒的反応を示し、この傾向が強い個人は他者の表現の変化に対して自身の感情が動かされやすいと考えられる。したがって表現によるポジティブさネガティブさの変化に相対的に鋭敏なため、変化数が増加したと考えられる。これらの結果から、フレーミング効果の生起要因の一つとして共感性が関係している可能性が示唆される。

文献

- [1] 長谷川 寿人(2015). 共感性研究の意義と課題, 心理学評論, 雑誌名, 58(3), 411-420.
<https://doi.org/10.24602/sjpr.58.3.411>
- [2] Levin, I. P., Schneider, S. L., & Geath, G. J. (1998). How consumers are affected by the framing of attribute information before and after consuming the product. *Journal of Consumer Research*, 15(3), 374-378.
<https://doi.org/10.1086/209174>
- [3] Tversky, A., & Kahneman, D. (1981). The framing of decisions and the psychology of choice. *Science*, 211(4481), 453-458.
<https://doi.org/10.1126/science.74556>
- [4] 鈴木 有美・木野 和代 (2008). 多次元共感性尺度(MES)の作成 教育心理学研究 56(4), 487-497.
<https://doi.org/10.5926/jjep.1953.56.4.487>
- [5] 大貫雄太郎・本田秀仁・植田一博 (2018) “充分”と感じるのか“足りない”と感じるのかは報酬の渡し方次第：非言語的フレーミング効果による評価の変化. 認知科学 26(1), 175-178.
<https://doi.org/10.11225/jcss.26.175>

- [6] 奥田秀宇 (2008) . 意思決定心理学への招待 サイエンス社